

【研修名タイトル】

『発達障害児者の支援に関する標準的な研修プログラム』によるオンライン研修

【概要】

この度、厚生労働科学研究の辻井班(研修)の取り組みとして、福祉、教育、医療などを包括した、わが国の標準的な研修プログラムを実際に取り組み、その成果やプログラム内容について検討し、開発を進めております。次年度以降、全国の発達障害者支援センターや教育センターの研修担当職員が講師を務めることを中心に考え、担当職員が各地で研修が可能になるための取り組みを行います。

今回、10-11月に(主任・分担研究者の関係者を中心に)研修経験のある支援者一般を対象に研修を行いながら研修内容を検討し、12月以降、確定した研修プログラムでの研修を行います。研修を修了した方に、研修のための研修スライドとテキストをお渡しし、次年度以降、自治体等で研修に取り組んでいただくこととなります。

現状、自治体ごとに研修内容が異なり、テーマで単発であったり、障害の定義的なもので終わっていたり、実際のアセスメントから支援までの流れを研修することが標準的な研修内容が示されていないことが、福祉、医療、教育で一貫した研修プログラムがないことを受け、今回開発することになりました。今回のプログラムは最初のプラットフォームですので、今後、さまざまな実践や研究の進歩の中で、定期的に改訂されていくものと考えられます。

【日時】 本研修は2日間のプログラムとなります。

<第1回> 2020年10月17日(土)9:00~17:00、10月18日(日)9:00~17:00

※申込〆切 10月10日(土)

<第2回> 2020年10月31日(土)9:00~17:00、11月1日(日)9:00~17:00

※申込〆切 10月24日(土)

<第3回> 2020年12月19日(土)~20日(日)[金沢]

<第4回> 2021年1月9日(土)~10日[弘前]

<第5回> 2021年1月23日(土)~24日[長崎]

<第6回> 2021年1月30日(土)~31日(日)[鳥取]

(※研修当日は、若干、時間延長等が生じる可能性があります)

【主催】

令和2年度 厚生労働科学研究(障害者政策総合研究事業)『国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発』研究班

(研究班の構成)

<責任者・主任>

中京大学・現代社会学部・教授 辻井 正次

<研修担当者・分担(五十音順)>

鳥取大学・医学系研究科臨床心理学講座・教授 井上 雅彦

長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授 岩永 竜一郎

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・知的・発達障害
研究部・部長 岡田 俊

帝京大学文学部心理学科・教授 黒田 美保

国立特別支援教育総合研究所・発達障害教育推進センター・上席総括研究員 笹森洋樹

宮城県子ども総合センター附属診療所・非常勤医師／浜松医科大学光先端医学教育研
究センター・生体機能イメージング研究室・訪問共同研究員 鈴木 勝昭

愛知東邦大学・人間健康学部・准教授 高柳 伸哉

国立障害者リハビリテーションセンター病院長／発達障害情報・支援センター長
西牧 謙吾

名古屋学芸大学・ヒューマンケア学部・講師 浜田 恵

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設 のぞみの園・事業企画局 研究部・部長
日詰 正文

弘前大学・医学研究科附属 子どものこころの発達研究センター・特任助教 三上 珠希

中京大学・心理学部・教授 明翫 光宜

金沢大学・人間社会研究域学校教育系・准教授 吉村 優子

【対象】

発達障害児者の支援をする支援者の養成に関わる教育機関の教員、研究班の主任・
分担研究者から紹介された方

【定員】

20名(厳密な制限ではありません)

参加費は無料です。

【方法】

オンライン研修で実施するので、自宅等から受講できます。

研修に参加するためには、インターネット回線とパソコン等の情報端末が必要です。

申込時にご記入いただいたメールアドレスに、本研修会へのリンクをお送りします。

【プログラム内容】

1日目(6時間20分+休憩40分)

- ・9時～12時 1)アセスメント2時間10分)適応行動30分
- ・13時～17時(若干、延長の可能性あり) 4)本人支援①3時間40分(幼児期)

2日目(6時間10分+休憩50分)

- ・9時～12時30分 3)家族支援50分、4)本人支援②2時間20分(児童期)
- ・13時30分～17時(若干、延長の可能性あり) 4)本人支援③2時間(青年期・成人期)、5)支援の実践(PDCA)1時間

【研修内容・担当者一覧】

1)発達障害の各種アセスメント・ツール

- ・発達障害を客観的なツールから理解する 辻井 正次
- ・客観的ツールでの理解と医学的診断 岡田 俊
- ・知能検査、発達検査 明翫 光宜
- ・ASD特性の検査 浜田 恵
- ・ADHD特性の検査 高柳 伸哉
- ・LD特性の検査 吉村 優子
- ・DCD特性の検査 岩永 竜一郎
- ・感覚特性の検査 岩永 竜一郎
- ・就学時健診 三上 珠希
- ・二次障害、問題行動 井上 雅彦
- ・個別の支援計画の作成 井上 雅彦

2)適応行動

- ・適応行動の解説、Vineland-IIなど 黒田 美保
- ・TASP(保育・指導要録のための発達評価シート) 高柳 伸哉

3)家族支援(きょうだい支援)

- ・家族支援の重要性、ペアレント・プログラム 高柳 伸哉
- ・ペアレント・トレーニング、ペアレント・メンターなど 井上 雅彦

4)本人支援

幼児期:

- ・適応行動(身辺自立など) 三上 珠希(森 裕幸)
- ・言語 吉村 優子
- ・運動・感覚 岩永 竜一郎(鴨下賢一、池田千紗)
- ・社会性 黒田 美保、浜田 恵

児童期:

- ・適応行動(情緒) 明翫 光宜

- ・学習 笹森 洋樹
- ・運動 岩永 竜一郎
- ・社会性 黒田 美保、浜田 恵

青年期:

- ・適応支援 鈴木 勝昭
- ・自己理解 岡田 俊
- ・社会性 辻井 正次

成人期:

- ・適応支援 日詰 正文・辻井 正次

5)PDCA サイクルによる支援の向上

- ・特別支援教育における研修 笹森 洋樹
- ・医療や福祉等における研修 西牧 謙吾
- ・実践を科学的に検証可能なものにしていくための研修のあり方 辻井 正次

【備考】

今回の第1回(10月17-18日)、第2回(10月31日-11月1日)については、研修プログラム開発の一環として行いますので、対象者を限定します。

第3回以降は全国の自治体・発達障害者支援センター・教育センター等の職員で研修担当者、及び、自治体から依頼された発達障害児者の支援をする支援者の養成に関わる高等教育機関の教員が対象となります。

【申し込み先】

- ・「お名前」「ご所属」「メールアドレス」を明記の上、下記へメールでお申し込みください。
- ※ご記入いただいたメールアドレス宛に研修会リンクをお送りしますので、誤字等にお気をつけください。

申し込み先: hattatu-isc@rehab.go.jp